

弘前城石垣修理

第 19 回 ～弘前城天守の耐震補強～

弘前城本丸石垣修理事業は2020（令和2）年より修理範囲のうち北側工区の積直し工事に着手しました（※1・2）。今年度は引き続き、16段のうち1～12段目の石垣積み直し作業を進め完成させるとともに、天守台石垣を含む南側工区の積直し工事に着手します。



▲積み直しが進む北側工区(令和3年8月)(※1)

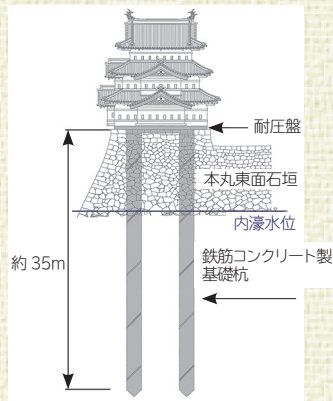


▲石垣積直し工事の工区分け（※2）

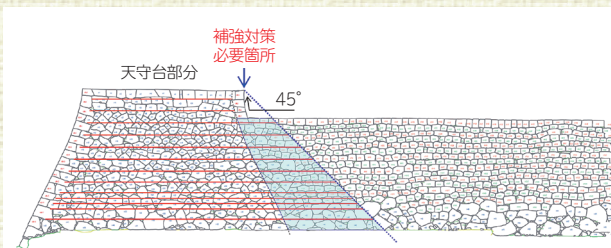
天守台石垣は当初、2019（令和元）年から積み直しに着手する予定でした。しかし2016（平成28）年の熊本地震など、全国各地で大きな災害が続いたため、文化財保護の観点から、弘前城跡でも天守周辺の耐震対策を行うよう文化庁より指導を受け、これまで天守および天守台石垣の耐震補強について検討を続けてきました。

検討にあたっては、石垣や建築等の専門家で組織した「弘前城跡本丸石垣修理委員会」の指導を受けた上で、文化庁との協議を進めました。結果、天守台付近の石垣（南側工区）が明治期に2度も崩落していることや、石垣の上に重要文化財指定の「現存天守」が載っているといった『弘前城跡の特異性』が考慮され、地下遺構への影響が軽微で、かつ天守本体の価値が守られる方法として、長さ約35メートルの鉄筋コンクリート製基礎杭4本を天守下の石垣内部に埋設し、それら基礎杭上に設置した耐圧盤に天守を載せるという、石垣に荷重をかけずに杭で天守を支える工法を採用することとなりました（※3）。

また、天守への基礎杭設置の他に、天守台石垣に対する耐震補強として、石垣内部に合成繊維樹脂を敷設するジオテキスタイル工法を採用します（※4）。これらの対策により、天守は震度6強の地震にも耐える計算となり、文化財としての価値が末永く守られることとなります。



▲天守基礎耐震補強イメージ図（※3）



▲ジオテキスタイル工法範囲（赤線）（※4）

今後の工事スケジュールは、令和4年度に実施する天守基礎耐震補強に係る設計等で詳細が決まりますが、現時点ではおおむね次のとおりです。

年度	石垣工事		天守工事		備考
	北側工区	南側工区	基礎耐震補強	建物修理	
令和4年度	↓	↓			設計 (耐震基礎)
令和5年度		↓	↓		
令和6年度		↓	↓		
令和7年度			↓		天守曳戻し
令和8年度～				↓	設計 (建物修理)

※工事の状況等により、変更となる可能性があります。

重要文化財「天守」を曳家（ひきや）した上で石垣を解体し、さらには天守基礎を耐震補強する大規模な工事は全国的にも事例がなく、今後も慎重な事業の推進が求められます。皆様のご理解とご協力をお願いします。

※弘前城本丸石垣修理事業の詳細（<http://www.city.hirosaki.aomori.jp/ishigaki/index.html>）／弘前城跡の文化財修理情報『弘前城かわら版』（<http://www.city.hirosaki.aomori.jp/jubun/2022-0331-1107-48.html>）

■問い合わせ先 公園緑地課弘前城整備活用推進室（弘前公園緑の相談所内、☎33-8739）